

授業実践報告書（低学年ブロック）

1 単元名 「問い」と「答え」を捉えて読もう
教材名 くちばし

2 学校課題研究との関わり

【仮説1に対する手立て】

話や文章に含まれている情報と情報の様々な関係を適切に捉えて、思考力や判断力、表現力などを働かせていれば、児童の知識、理解の質を高めることができ、主体的に学びに向かう児童を育てることができるであろう。

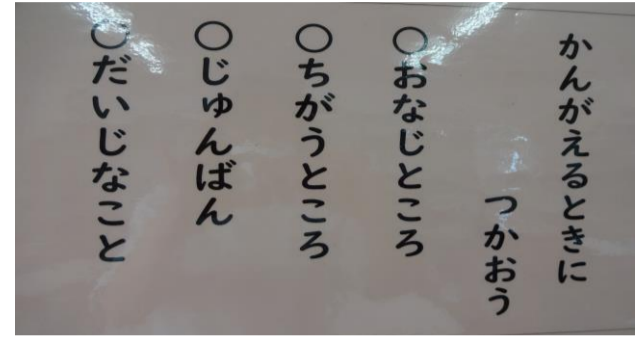
- ①同じところと違うところを比べることにより、「くちばしの形」と「食べるもの」の関係性を正しく捉えさせる。
- ②板書は内容ごとに色分けし、視覚から事柄の順序を正しく捉えさせる。

【仮説2に対する手立て】

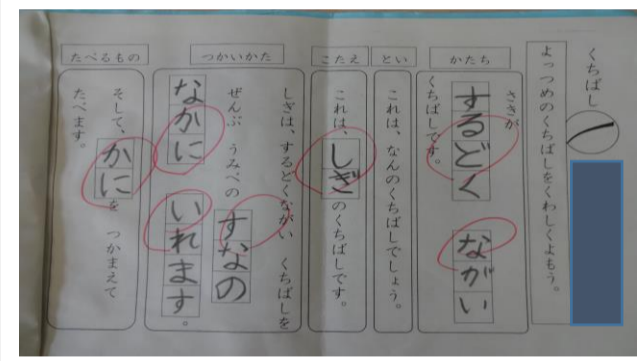
取り出した情報について、整理の仕方、比較・分類の仕方、メモや記録の仕方、引用などの仕方を知り、必要な語句やキーワードを使って相手に伝えることができれば、授業を通して児童の「伝え合い、学び合う」力が高まるであろう。

- ①ワークシートの内容ごとに色分けをすることにより、情報を整理し、事柄の順序を正しく捉えさせる。
- ②「わけをはなそう」で学習した話型を使い、自分が一番驚いたくちばしとその理由を伝え合うことにより、情報を比較し適切に相手に伝える力を養う。

仮説1-① かんがえるときにつかおう



仮説2-① ワークシート

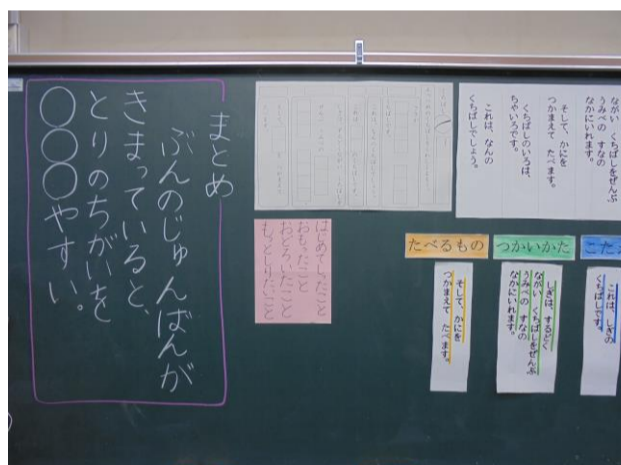


仮説2-②

「わけをはなそう」話型

わたしは、○○○○です。

どうしてかというと、○○○○だからです。



仮説1-② 色分けした板書

3 単元の目標

- (1) 事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。 (思考C (1) ア)
- (2) 文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。 (知識 (1) カ)
- (3) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 (知識C (1) ウ)

4 単元で取り上げる言語事項

文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合う。

「事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動」を通して、指導につなげていく。分かったことや考えを述べるためには、文章から情報を正確に読み取ることができなければならない。その際、教師の発問によって情報を取り出させるだけでなく、文章の情報を順序立てて取り出すことや、取り出した情報を順序立てて確認する必要性を児童が感じられるように指導した。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①文の中における主語と述語との関係に気づいている。 (1) カ)	①「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C (1) ア) ②「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C (1) ウ)	①積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。

6 指導と評価の計画 (全9時間)

次	時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
第1次	1	○鳥やくちばしについて知っていることを出し合う。 ○挿絵のくちばしを見て答えを予想する。	○知っていることを発表し、共有する。 ○3種類以外の鳥の写真も見て、色々な鳥やくちばしに興味を持つ。 ○答えを予想する。	【思C】これまでの体験や知っていることを思い起こし、問いに答えようとしている。 [発言] 【態】鳥のくちばしについて書かれた文章を、興味を持って読もうとしている。 [発言]
第2次	2	○教師の範読と自分の予想を比べながら聞き、内容の大体を知る。 ○全文を音読し、感想を交流する。	○教師の範読を聞いて内容の大体を知る。 ○一緒に音読し、知っていたこと、思ったことなどを話す	【知】「問い」と「答え」を意識しながら読んでいる。 [音読] 【知】主語と述語を捉えて、文を理解している。 [発言]
	3 4 5 6 (本時)	○きつつき、おうむ、はちどり、シギについての文章が「問い」「答え」という形式になっていることを知る。 ○写真と本文を照らし合わせたり、色分けしたり、パズルを完成させたりしながらそれぞれのくちばしの特徴を捉える。	○音読する。 ○「かたち」「問い」「答え」がどの文なのか把握する。 ○「特徴と使い方」「食べ物」の部分の色分けし、内容を理解する。 ○バラバラなシギについての文を順序に気をつけて並び替え、本文を完成させる。 ○ワークシートにまとめる。 ○「問い」と「答え」に役割分担して音読する。 ○「これは、～でしょう。」クイズをして、問いと答えの形式を実際に使う経験をする。	【思C】「これは、なんの～でしょう。」という問いと、「これは、～です。」という答えを捉えている。 [発言・音読] 【思C】「問い」と「答え」以外の説明部分に、何がどういった順序で書かれているかを理解している。 [色分け・作業・記述・発言] 【態】「くちばし」の内容や「問い」と「答え」の違いを意識して読んだり答えたりしている。 [音読・発言・記述]
	7	○「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら音読する。		
第3次	8 9	○4種類のくちばしの中から一番驚いたくちばしとそれを選んだ理由を発表し、紹介し合う。	○自分が選んだくちばしとその理由を発表する。 ○学習全体を振り返る。	【態】自分の感じたことを、理由とともに積極的に伝えようとしている。 [発言]

7 本時の学習指導 (6/9時)

(1) 目標

「問い」と「答え」の構成を理解し、内容を捉えることができる。

<思考力、判断力、表現力> C(1)ア

(2) 評価規準

「問い」と「答え」という事柄の順序や内容を、正しく捉えて理解している。

【思考・判断・表現】

評価について 【思考・判断・表現②】 評価方法・本文プリントの色分け、順序の並び替え、ワークシートの記述、ペア活動時の発言や様子

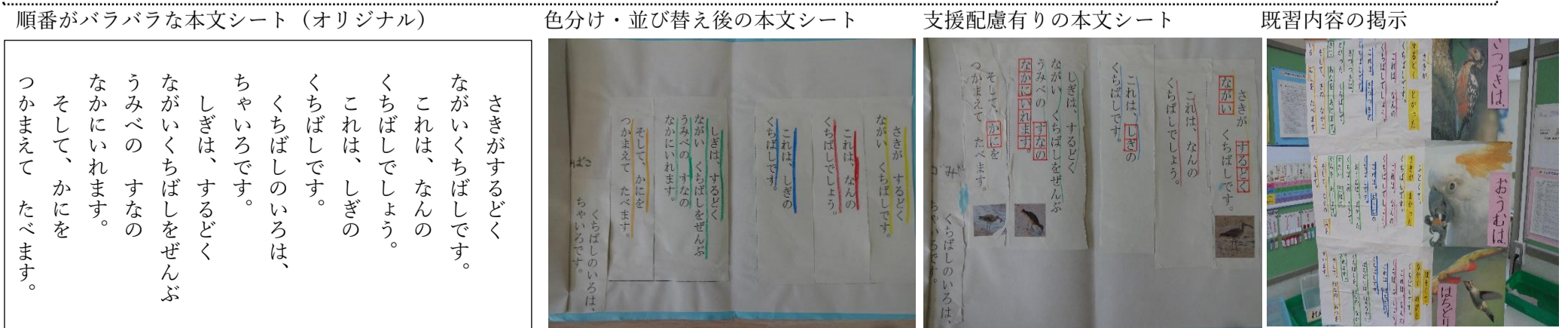
- 本文プリントにくちばしの形・問い・答え・特徴と使い方・食べるものの5項目を色分けできているか。
- バラバラの順序で示される情報を、正しい順序に並び替えができていないか。
- ポイントとなる語句をワークシートに記入できているか。

A評価・・・上記の内容を自力とペアでの話し合いにより解決することに加え、故意的に入っている不要な情報の存在に気付き、削除することができる。

B評価・・・上記の内容を自力とペアでの話し合いにより解決することができる。

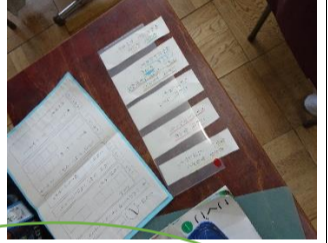
☆ 努力を要する状況(C)への手立て

- ・ イラスト入りで、ポイントとなる語句にワークシートと同様のます目をつけた本文プリントの使用。
- ・ 既習内容の色分け済みの本文やワークシートの掲示。



(3) 展開

学習活動	学習内容	指導の意図と児童の学習の様子
1 前時の学習を確かめ、本時のめあてを知る。	○はちどりの説明文を見て、色分けの意味を確認する。 ○めあてを確認し、学習の流れを知る。	分ける色が5色が多いため、項目と使う色の再確認を行うのと同時に、文に書かれた項目の順番に意識を持たせることで、本日の学習の「くちばしパズル」に取り組みやすくさせる。
4 つめのくちばしのぶんをただしくならびかえて、くわしくよもう。		教科書で既習したことを活かし、更に主体的に学ぶために伝え合い学び合う手立てとして、4番目の鳥「シギ」についての自作文を使って思考させる。
2 シギの文を音読して内容を捉える。	○順番がバラバラな文を右から音読する。	既習の「3つのくちばし」の文と違う順番で説明文が構成されていること、同じ順にした方が他の鳥との違いを比べる易くなること、項目の順番の重要性などに気付かせる。
3 「かたち」を色分する。	○「かたち」を全員で一緒に確認し、黄色で色分けする。	「かたち」以降は、個人思考とペアでの話し合いでの解決になるため、考え方と作業内容の確認と行う。
4 「問い」「答え」「特徴と使い方」「食べるもの」を色分けする。	○始めは個人思考で色分けし、その後ペアで話し合い、確認や修正をする。	自分や友達の考えを伝え、聞き、学び合うことで、互いの考えを修正したり深めたりさせる。
5 全体で話し合う。	○ペアでの思考を発表し合い、確認する。いらない情報を排除する。	余分な情報を1つ入れることで、児童の思考を揺さぶり、5項目に更に着目させる。
6 くちばしパズルをする。	○本文を項目ごとに切り取り、正しい順番にならびかえる。個人思考→ペア学習	自分や友達の考えを伝え、聞き、学び合うことで、互いの考えを修正したり深めたりさせる。文章カードを何度も並び替え出来る様に、扱いが容易なクリアファイルポケットを使わせる。
7 全体で話し合う。	○ペアでの思考を発表し合い、確認する。	主語（シギは～）を意識させる。項目の順序は同じで、鳥によって内容が違うことを理解させる。
8 本時のまとめをする。	○読み取ったことをワークシートに整理する。	文章中の穴埋めをさせることで、ポイントとなる語句に着目させる。
9 学習の振り返りをする。	○自分の感じたことを表現する。	ワークシートに分かったことや感想を書かせたいが、平仮名表記がスムーズでない児童もいるため、発表や挙手の形で、全員に表現をさせる。



分ける色が5色が多いため、項目と使う色の再確認を行うのと同時に、文に書かれた項目の順番に意識を持たせることで、本日の学習の「くちばしパズル」に取り組みやすくさせる。

教科書で既習したことを活かし、更に主体的に学ぶために伝え合い学び合う手立てとして、4番目の鳥「シギ」についての自作文を使って思考させる。

既習の「3つのくちばし」の文と違う順番で説明文が構成されていること、同じ順にした方が他の鳥との違いを比べる易くなること、項目の順番の重要性などに気付かせる。

今までと、何かちがうな。

「シギ」って聞いたことない鳥だな。

「かたち」以降は、個人思考とペアでの話し合いでの解決になるため、考え方と作業内容の確認と行う。

自分や友達の考えを伝え、聞き、学び合うことで、互いの考えを修正したり深めたりさせる。

今までにやった鳥の色分けを思い出そう。5つの色に当てはまらない文がある？

自分や友達の考えを伝え、聞き、学び合うことで、互いの考えを修正したり深めたりさせる。文章カードを何度も並び替え出来る様に、扱いが容易なクリアファイルポケットを使わせる。

主語（シギは～）を意識させる。項目の順序は同じで、鳥によって内容が違うことを理解させる。

文の順番が今までとおなじになって、わかりやすくなった。やっぱり、くちばしの色は、いらなかったんだね。

文章中の穴埋めをさせることで、ポイントとなる語句に着目させる。

ワークシートに分かったことや感想を書かせたいが、平仮名表記がスムーズでない児童もいるため、発表や挙手の形で、全員に表現をさせる。

シギとはちどりのくちばしの形は似てるけど、シギのくちばしは曲がっています。どこにカニがいるってわかるのかな？もっと知りたいな。

成果と課題

- <成果>
- ・色分けすることにより、説明文の構成を捉えさせることができた。
 - ・教材文で説明文の読み取りを習得させ、授業研究会ではオリジナルの「シギ」の文章でパズル形式を取り入れた。子どもたちは順番がバラバラの文章を色分けすることによって、正しい順番に並び替えることができた。
 - ・色分けやパズルを完成させるにあたり、段階を踏んで「個人→ペア」の思考をすることにより、伝え合い学び合う学習ができた。
 - ・ダミーの情報を1つ入れることにより、いらない情報・重要な情報を精査することができた。
 - ・文の読み取りが不十分な児童に対し、写真やマス入りのワークシートを作成し、出来るだけ自力解決できるように支援ができた。
 - ・自分の経験と重ね合わせて、たくさんの感想を持ち、考えを交流することができた。
 - ・単元を通して既習内容を掲示することにより、それまでの学習内容を使って新たに考えることができた。
 - ・子どもたちが、受動的ではなく、自発的に学習に臨めた。
- <課題>
- ・いらない情報としての内容が、くちばしから離れた内容にすると、もっと明確になった。
 - ・本文をはさみで切る作業を省くために、既に切っておいたカードを袋に入れて配布すると、作業の煩雑さがなくなり時間短縮ができた。
 - ・学習環境を整えるためには、関連本の冊数がもっと多いと良かった。
 - ・2学期以降は、筆記による振り返りをさせる。